

・調査研究の概要

1 趣旨

高齢者人口の増加や価値観の多様化に伴い、「年齢に関わりなく活躍する活力ある高齢者」「困窮する弱者としての高齢者」等、様々な高齢者像が見られるようになってきた。

本調査では、就業・所得、健康・福祉、学習・社会参加及び生活環境の4つの分野について、高齢者の実態と動向についてコーホート分析を行い、高齢者の実態と動向を正確に把握する。

2 調査研究項目

高齢社会対策大綱の対象分野である就業・所得、健康・福祉、学習・社会参加、生活環境の4つの分野について、分析対象とするデータを選定する。その際、「『多様なライフスタイルを可能にする高齢期の自立支援』に関する政策研究報告書 - 「活動的な高齢者」、「一人暮らし高齢者」、「要介護等の高齢者」の指標」を参考とする。

対象分野：

就業・所得・・・就業状況、就業形態(時間)、就業意欲、就業履歴、資産、所得
健康・福祉・・・健康状態、無障害平均余命
学習・社会参加・・・社会参加活動、学習活動
生活環境・・・消費行動、家族関係、世帯構成、生活時間配分、学歴

3 体制

有識者から成るアドバイザー・グループ(AG)において、具体的な分析の進め方、分析結果の解釈・考察・留意事項等について検討を行い、その結果を踏まえ、報告書のとりまとめを行う。

<委員構成>

おおはら かずひろ
大原 一興 横浜国立大学大学院工学研究院 教授

〔生活環境分野 主査〕

(座長) せいけ あつし
清家 篤 慶應義塾大学商学部 教授

なかむら たかし
中村 隆 統計数理研究所データ科学研究系 教授

みえの たかし
三重野 卓 山梨大学教育人間科学部 教授

〔学習・社会参加分野 主査〕

むらしま さちよ
村嶋 幸代 東京大学大学院医学系研究科 教授

〔健康・福祉分野 主査〕

やまだ あつひろ
山田 篤裕 慶應義塾大学経済学部 准教授

〔就業・所得分野 主査〕

[50 音順・敬称略]

全体スケジュール(計画)

開催時期	アジェンダ(案)	備考
12月24日(水)	第1回アドバイザー・グループ	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査研究の目的、分析手法の確認 ● 指標抽出方法等について確認・議論
1月	<ul style="list-style-type: none"> ● 指標抽出・整理 	<ul style="list-style-type: none"> ● 各分野の主査との協議のもとに、分析で取り上げるべき指標とそのデータソースを選定し、資料作成
1月23日(金) 26日(月)	第2・3回アドバイザー・グループ 1回目: 就業・所得、学習・社会参加 2回目: 健康・福祉、生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ● 指標・データソースを資料として提示 ● コーホート分析対象の絞り込み(分析対象指標とそのデータソースについて、分野ごとに2回に分けて議論)
1月末	<ul style="list-style-type: none"> ● 中間報告書とりまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ● ここまでの作業経過を整理・とりまとめ
2月 ~3月上旬	<ul style="list-style-type: none"> ● コーホート表作成 ● コーホート分析 ● 分析結果の考察・整理 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中村教授にご協力頂き、コーホート分析を実施
3月23日(月)	第4回アドバイザー・グループ	<ul style="list-style-type: none"> ● 各分野の主査との協議のもとに、分析結果の見方(考察)についてまとめたものを資料として提示 ● 分析結果・考察(4分野ごと)、報告書(案)について議論
3月末	<ul style="list-style-type: none"> ● 最終報告書のとりまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第4回AGでの指摘を踏まえて、追加分析、加筆修正等を行った部分については、委員による報告書(最終案)確認(郵送ベース)を経て確定

4 調査研究の進め方

以下の5つのSTEPに沿って進める。

STEP1 : 既存ビジョン・方針等において示されている方向性・目標等からの指標の抽出・整理

「動向分析」の対象となる「指標」は、今後の高齢社会の方向性や政策課題をうらなう視点から、政府がめざす(あるいは政策的に望ましい)方向性に対応する実態が把握できるよう設定する。
具体的には、これまでに内閣府が実施してきた「高齢社会対策の総合的な推進のための政策研究」等で示している望ましい方向性と、「経済財政改革の基本方針(骨太の方針)」をはじめとする政府機関が公表している既存のビジョン・方針等から、示されている方向性、めざすべき姿、目標等を抽出し、4つの分野(就業・所得、健康・福祉、学習・社会参加、生活環境)ごとに整理する。

この段階では、特に指標数の限定を行わず、網羅的に抽出するものとする。

STEP2 : 指標を表す統計データ等の整理

STEP1の指標候補の網羅的な抽出が終わった段階で、各分野の主査との協議により、統計データを収集整理すべき指標を、各分野10程度選定する(4分野×10指標=計約40指標を選定)。

選定した指標に該当するファクトデータを既存統計調査から、意識・価値観データを既存社会調査・意識調査等から選定し、調査時点別年齢別に整理したコーホート表を作成する。

なお、収集するデータの範囲は、「将来の高齢者像」を展望するという観点から、現時点の高齢者に限らず、将来高齢者になる層(主として60代前半、あるいは55歳以上)を含む幅広い年齢層を対象とする。また、指標によっては、男女別あるいは世帯類型別に把握する必要がある可能性もある。

さらに、ビジョン等で示される目標等には、個人の状況を表す指標ではないものも含まれている(例;「少なくとも65歳まで働ける場を確保する企業の割合」「最低居住水準以上で設備等の上限を満たす住宅の割合」等)。これらは年齢(世代)で捉えられないデータであり、コーホート分析には適さないが、政策上重要な場合もあることから、必要に応じ「参考指標」として変化の動向等を把握する。

STEP3 : 指標の絞込み

STEP1・2で選定・整理した指標及びデータから、アドバイザー・グループ(第2回・第3回)での検討を通じて、コーホート分析対象とすべき指標・データの選定(絞込み)を行う。
コーホート分析の対象は、各分野3~5指標、合計20指標程度とする。

また、ここまで検討した、以下のような内容を整理し、「中間報告書」としてとりまとめを行う。

- 調査研究の背景と目的、及び、ここまでの検討経過
- 選定した指標及びデータソース一覧
- 各指標のコーホート表

STEP4 : コーホート分析の実施

STEP3で選定・整理した指標及びデータを用い、世代の傾向分析を行うのに適した手法であるコーホート分析を行う。統計学的な信頼性・適切性を担保するため、統計数理研究所中村隆教授の協力を仰ぐこととする。分析結果やとりまとめの方向性については、第4回アドバイザー・グループで議論を行う。

STEP5 : 報告書のとりまとめ

アドバイザー・グループでの検討結果を反映し、最終報告書のとりまとめを行う。

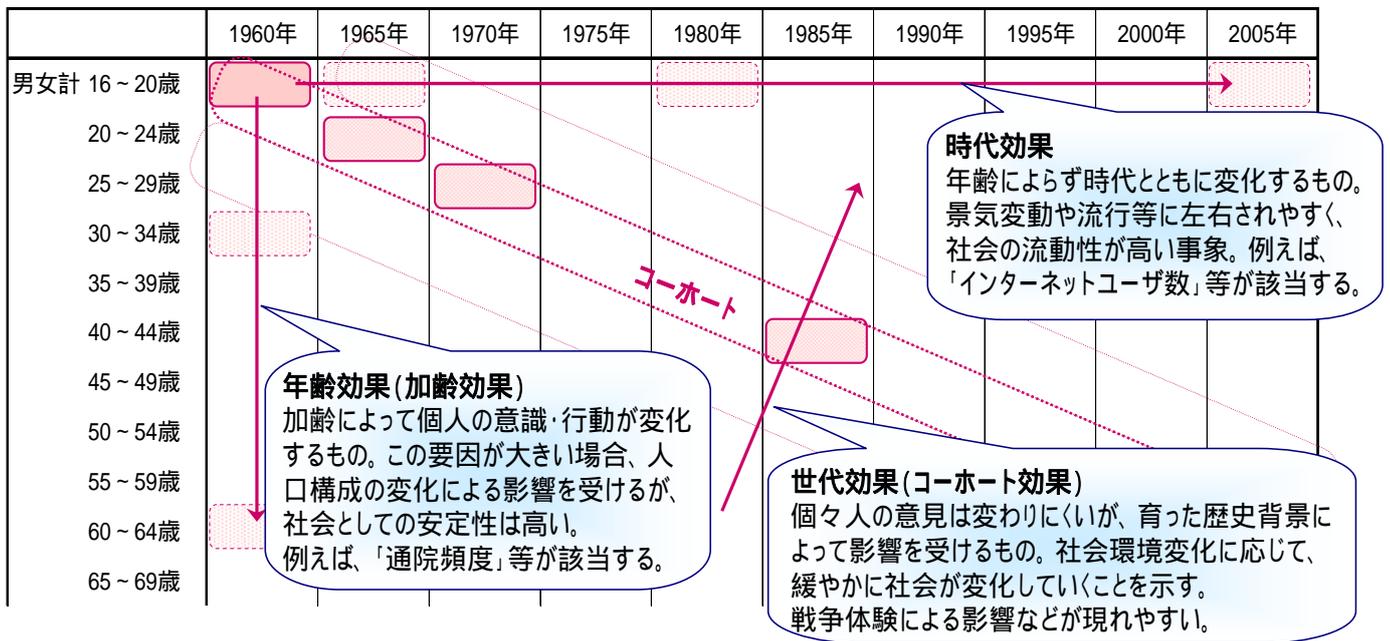
【参考】 コーホート分析について

コーホート分析とは、長期的な継続調査データから、その変化の要因を加齢の要因による影響（年齢効果あるいは加齢効果）、時勢の要因による影響（時代効果）、世代差の要因による影響（世代効果あるいはコーホート効果）に分離する分析方法である。

コーホートとは出生年（あるいは出生年代）を同じくする集団を指す用語であり、例えば、「団塊の世代（1947～1949年生まれの者）」という捉え方は正にコーホートに着目した捉え方である。

コーホート分析では、年齢効果や時代効果を除くことにより、世代に起因する効果を抽出することができることから、現在の高齢者と過去の高齢者の違いの比較検討に適した手法である。

コーホート表と年齢効果、時代効果、世代効果のイメージ



一方、コーホート分析は、「世代 = 時代 - 年齢」という関係性があるために何らかの制約条件を与えなければ3効果を一意に推定できないという、いわゆる「識別問題」を抱えていることが知られている。つまり、年齢効果、時代効果、世代効果が混交し、分解が難しいのである。

このようなことを踏まえ、既存のコーホート分析手法のうち、最も信頼性の高い手法である「ベイズ型コーホート分析」を用いて分析を行うことを想定する。